

読 響

YOMIKYO
Yrs.
1962-2022

沈むナイフ、赤く染まる水。
だけど私は、しぶとく生きる。



指揮
上岡 敏之

Conductor = TOSHIYUKI KAMIFOKA

ドイツを拠点に欧州で活躍し、
独自の解釈で曲の奥義に迫る求道者



ソプラノ
森谷 真理

Soprano = MARI MORIYA

メトロポリタン歌劇場など
世界の檣舞台で活躍するディーヴァ

ボーイソプラノ
TOKYO FM 少年合唱団
Boy Soprano = TOKYO FM BOYS CHOIR

ウェーベルン
6つの小品 作品6 (1928年版)
WEBERN: 6 Pieces for Orchestra, op. 6 (1928 version)

ベルク
歌劇「ヴォツェック」から3つの断章
BERG: 3 Bruchstücke aus "Wozzeck"

ツェムリンスキー
交響詩「人魚姫」
ZEMLINSKY: Die Seejungfrau

読売日本交響楽団 第617回 定期演奏会
Subscription Concert No. 617

2022 5/24 火 19:00
サントリーホール

Tuesday, 24 May, 2022 19:00 / Suntory Hall

S ¥7,600 A ¥6,600
B ¥5,600 C ¥4,100

読響チケットセンター
0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、
読売テレビ、読売日本交響楽団
助成: 文化庁文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力: アフラック生命保険株式会社

鬼才・上岡敏之が描く 「死」と「魂の救済」

欧州で活躍する上岡敏之が、2015年末の「第九」以来、約6年半ぶりに読響の指揮台に上がる。上岡と読響の初共演は、24年前の1998年。ドイツを拠点に「劇場たたき上げ」の指揮者として活躍し、30代後半でドイツ・ヴィースバーデンのヘッセン州立歌劇場の音楽総監督を務めていた上岡の日本デビューだった。それ以後、共演を積み重ねてきた読響と今回、新たなスタートを切ることになる。61歳となり円熟期を迎えた上岡が、世代交代の進んだ今の読響と、どんな音楽を響かせるのか、期待は膨らむばかりだ。

プログラムは、上岡が得意とするドイツ・オーストリア音楽から、20世紀初頭に書かれた3つの作品。いずれもシェーンベルクが1921年に書いた「5つのピアノ曲」で体系化したとされる「十二音技法」の前後、音楽史における転換期に書かれた並々ならぬ意欲に満ちた曲だ。

1曲目のウェーベルン「6つの小品」は、師シェーンベルクに捧げた作品で、ウェーベルンは母の死を背景として1909年作曲した。この

曲は、暗く沈んだ雰囲気を持ち、突如悲鳴や叫びが発せられるようだ。今回は1928年に自ら編曲した2管編成版で演奏する。

2曲目には、ドレスデン国立歌劇場にデビューを果たす森谷真理の共演で、ベルクが1922年に完成させた歌劇「ヴォツェック」から3つの断章を演奏する。昨年の歌劇「ルル」のタイトルロールでも絶賛された森谷が、上岡の創意に富んだタクトで、死に導かれるマリー役の世界観を浮き彫りにする。

後半は、ツェムリンスキーが1903年に完成させた交響詩「人魚姫」を披露する。R.シュトラウスの交響詩「英雄の生涯」に影響を受け、友人シェーンベルクと競うように新たな標題音楽の創作に取り組んだツェムリンスキーが、アンデルセンの童話を基に作曲したもの。美しい旋律に満ちた叙情的で極めてオペラティックな作品だ。上岡のタクトは、大編成のオーケストラを縦横無尽にドライヴし、人魚姫の儚き死と「魂の救済」を描き出すだろう。

上岡敏之 (指揮)

コペンハーゲン・フィルの首席指揮者を務め、ドイツを拠点に活躍する鬼才。独自の解釈で作品の核心へと迫る大胆な表現で、聴衆の心を鷲掴みにしている。東京芸大卒業後に渡独、ハンブルク音大で学び「劇場叩き上げ」指揮者としてキール市立劇場でキャリアを始めた。エッセン歌劇場を経て、ヴィースバーデンのヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ザールラント州立歌劇場音楽総監督、グッパータール市立歌劇場の音楽総監督兼インテンダント、新日本フィルの音楽監督などを歴任。ザールブリュッケン音大指揮科正教授として後進の指導にあたっている。読響には1998年の初登場以来、度々客演。《読響アンサンブル・シリーズ》でもピアノを弾き、読響メンバーと室内楽でも共演を重ねている。

森谷 真理 (ソプラノ)

武蔵野音楽大学卒業、同大学院及びマネス音楽院修了。「魔笛」夜の女王で鮮烈なメトロポリタン歌劇場デビューを飾る。リンツ州立劇場専属歌手として「ラ・ボエーム」「椿姫」など数々の作品に出演するほか、ウィーン・フォルクスオーパー、ライプツィヒ歌劇場、バーゼル歌劇場、シアトル・オペラなどで活躍。国内では、びわ湖ホール「ローエングリン」エルザ、東京二期会「ばらの騎士」元帥夫人、「サロメ」「蝶々夫人」「ルル」の各表題役などで卓越したテクニックと表現力で絶賛された。コンサートでも、国内外の主要楽団と数多く共演。2019年には「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を務めた。今年5月には、ドレスデン国立歌劇場に「蝶々夫人」の表題役でデビューする。

読響日本交響楽団 第617回 定期演奏会

2022年 5月24日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017